

2025年 3月社会福祉法人 江刺保育園

保育通信

江刺保育園長を退任致します。

遠藤 清賢

江刺保育園で働き始めたのは今から24年前だったと思います。保育園は私には4か所目の働き場所でした。大学では電気工学を専攻していましたので花巻市にある製作所に就職しました。今のようなパソコンはまだありませんが、そのパソコンになる前の世代のデーター伝送を行う機械を製造する会社です。その電子制御を行う電子回路設計の仕事をしていました。20歳代は頭脳労働者でした。その会社の経営が悪化し不安を感じ6年目で、退職しました。約半年は何もしないで自宅で過ごしていました。結婚することになり、無職である自分が価値の

ない人間に思え、こんな者が家庭を持って良いのかと悩み、新しい働き場所を探した結果、地元にある電気工事会社に拾ってもらいそこで30代後半まで働きしました。初めは電気工事については全くの素人でしたので私にできることは穴掘りとか、荷物運びのような作業しかできませんでした。前の職場と違い外で自然のなかでの仕事でしたので新鮮な感覚でしたが、肉体労働でしたので体はとても大変でした。1年後くらいから電気工事の資格を取り大きな現場を任されるようになりました。「新幹線北上駅」や「ささらホール」「水沢農業高校の臥牛寮」「江刺保育園」等は私が担当した現場です。当時はバブル真っただ中で、非常に忙しく休日返上で働かなければならない日が続きました。特に大変だったのは北上市にある今のキオクシャのある東芝の半導体工場の工事でした。朝の6時から深夜の1時過ぎまで働

いてもどうにもならない状況でした。働き手が集まらず、工事期間も短く、それでいて下請けの工事で元受けの担当者から厳しく責められるのです。今でいうパワハラでした。毎日が辛くてもうこれ以上は働けないという状況まで追いやられ、結局、700万円以上の損失を出してしまいました。あれほど苦労したのに全く報いられないという体験でした。会社の社長は「何もしないでビールを飲んでいたほうが良かったな。ご苦労さんでした。」と損失を責めることなく優しく慰めてもらいました。いまでもその工事をした場所に行くとき気が悪くなります。

そんなことがあった後、教会の牧師先生から老人ホームで働いて見なかというお話を頂きとても喜んだことを思い出します。社会福祉という新しい働き場所が与えられました。お年寄りの介護が新しい仕事になりました。老人ホームは24時間業務なので

夜勤業務が週1回から2回あります。主な業務は入浴介助、食事介助、排泄介助等の生活支援の働きです。はじめは大きな工事現場を仕上げる重圧から解放された肉体的にも精神的にも楽になり、とても楽しいと思いました。私のころは120人くらいのお年寄りがいたと思います。夜勤ではオムツ交換が重要な働きです。1回の夜勤で100人以上のオムツを交換していたと思います。介護も肉体労働です。それに加え、お年寄り精神的なケアも大切な働きでした。最初はお年寄りの気持ちに寄り添うように努力できるのですが、徐々に楽しいと思っていた仕事は大変さを覚えるようになりました。特に夜勤後半になってくると体も心も自分の理性的な働きが出来なくなってくるのです。笑顔で出来ていた介護は笑顔が消え、怒りの表情になっていたかもしれせん。自分の心の弱さを感じる毎日だったと思いま

す。保育もそうですが介護も精神的な強さが求められる仕事です。そして生きることに対して自分なりの確信がないと続けられない働きだと思いました。生きることを大切に思うこと、しかも大きな喜びを持って、希望を持って、一時一時を過ごすことが求められる働きだと思います。しかし、理想と現実の狭間の中でもがきながら過ごす毎日でした。

介護の仕事をして良かったと思うことは自分の祖父母と両親の看取りをした時です。祖父も祖母もそして両親も自分たちが動けなくなったら老人ホームに入所させて欲しいと言っていました。祖父は具合が悪いと訴えた次の日に逝去しました。祖母は腰痛治療で私と一緒に通院し電気マッサージをしているとき体調を崩しそのまま逝去しています。祖父母の死の際には娘たちも含めて家族全員でお別れをすることができました。父は大腿部骨折のため歩行困

難になってしまいました。訪問医療、看護等を利用して自宅で最期を看取りました。老衰でした。母も同じく老衰で、自宅で看取りました。二人とも終末期はほとんど寝たきりの生活でしたが訪問医療、訪問看護を利用し自宅で看取ることができたのは施設で介護の仕事をした経験が非常に役立ちました。保育園の職員には、不定期で休むこともあり迷惑をかけてしまいましたが、それ以外私たちには何も大変なことはなかったと思います。家族と共に死のお別れができたことはとても自然であり大切に、私たちもまた父母も幸せなことであったと思います。其々の経験が今を生きるために大切な私たちの精神を育ててくれたのだと思います。私と妻はクリスチャンですので、これらの出来事を心から神様に感謝の祈りをささげるのです。10年以上介護の働きをしました。その中で江刺保育園の当時の理事長である

菊地三郎先生と園長である菊地和子先生から次期園長として江刺保育園で働いて欲しいというお話がありました。私は大学2年生の時クリスチャンになりました。それから江刺教会員として信仰を守ってきました。理事長の三郎先生も江刺教会員で江刺保育園創立のために中心となった方でした。とても嬉しいお話しでした。妻と相談し教会の牧師先生でもある老人ホームの園長先生も快く送り出して下さり現在に至っています。其々の職場は全く未経験で始まりましたので今回も何の苦労もなく保育に携わることができました。ただ、周りにいる保育園の先生たち、そして多くの子どもたち、その保護者の皆さま方が私を支え励まして下さったことによって私は園長として育てられ、その働きができたのです。今までの働きと違い、子どもたちとの関わり合いはとても楽しく、毎日が喜びに満ちています。汚れない純真

な子どもたちは、汚れた罪深い私を癒してくれるのです。私は何と恵まれた者なのかと心から感謝する毎日です。

2025年3月31日をもって園長を退任しますが、理事長としての働きは続きます。毎日来る日は少なくなりますが気持ちの上では今までと何も変わりはありません。今後ともよろしくお願いいたします。2025年度より新園長として江刺教会牧師として副園長である掛江隆史先生が就任します。少子化のため利用児童が大幅に減少し施設経営は非常に難しい時代になっていますが、保育の必要性は益々高まっています。4月より保育園の新しい歩みが始まります。新園長の働きのために祈って下さい。皆様のお支えと励ましを今以上によりしくお願いいたします。私を暖かく励まし、支えて下さった子どもたち、そして多くの皆様に心から感謝いたします。